

令和4年8月27日(土)～
10月2日(日)

【田原市博物館 テーマ展】

渡辺崋山とゆかりの人たち

展示室
特別展示室

| 指定 | 作者 | 作品名 | 制作年 | 材質 | 員数 | 法量(cm) | 備考 |
|----|-------------------|---|---------------------------|------|------|------------|----------------------|
| 重美 | わたなべ かざん 渡辺崋山 | たちほらすいけんぞうこう 立原翠軒像稿 | 文政6(1823)年頃 | 紙本淡彩 | 1幅 | 29.6×27.3 | |
| | 渡辺崋山 | たけなかげんしんぞう 竹中元真像 | 天保年間 | 紙本淡彩 | 1幅 | 38.9×27.4 | |
| | 渡辺崋山 | はやしだいがくのかみじゆっさいぞうこう 林大学頭述斎像稿 | 天保年間? | 紙本淡彩 | 1幅 | 156.5×87.6 | |
| | 渡辺崋山 | いちかわあべいあんぞう ふくせい 市河米庵像【複製】 | 天保8(1837)年 | 絹本着色 | 1幅 | 121.5×58.6 | 原本:重要文化財 京都国立博物館蔵 |
| | 渡辺崋山 | さとう いっさいぞう ふくせい 佐藤一斎像【複製】 | 文政4(1821)年 | 絹本着色 | 1幅 | 80.6×50.2 | 原本:重要文化財 東京国立博物館蔵 |
| | 渡辺崋山 | さとういっさいぞうこう だいに ふうせい 佐藤一斎像稿(第十一)【複製】 | 文政年間 | 紙本淡彩 | 1幅 | 74.1×47.1 | 原本:重要美術品 個人蔵 |
| | 渡辺崋山 | さとういっさいぞうこう だいに ふうせい 佐藤一斎像稿(第二)【複製】 | 文政年間 | 紙本淡彩 | 1幅 | 37.8×18.5 | 原本:重要美術品 個人蔵 |
| | さくらま せいがい 桜間青厓 | たいこうぼうず 太公望図 | 江戸時代後期 | 絹本着色 | 1幅 | 132.7×47.8 | 奈良コレクション |
| | 桜間青厓 | こうめいず 孔明図 | 江戸時代後期 | 絹本着色 | 1幅 | 132.6×47.8 | 奈良コレクション |
| | 桜間青厓 | おうぎしず 王羲之図 | 江戸時代後期 | 絹本着色 | 1幅 | 132.7×70.8 | 奈良コレクション |
| | 桜間青厓 | うんちゆうにせんず 雲中二僊図 | 江戸時代後期 | 絹本着色 | 1幅 | 116.6×53.9 | 奈良コレクション |
| | いとう ほうざん 伊藤鳳山 | ししよ びやうぶ 詩書屏風 | 明治2(1869)年 | 紙本墨書 | 二曲一双 | 136.0×59.9 | 個人蔵 |
| | 伊藤鳳山 | ぜっぴつ 絶筆 | 明治3(1870)年 | 紙本墨書 | 1幅 | 103.8×30.1 | |
| | 伊藤鳳山 | ししよ 詩書 | 江戸時代後期 | 紙本墨書 | 1幅 | 97.9×51.2 | |
| | 渡辺崋山 | きょくていばきんあてしよじょう 曲亭馬琴宛書状 | 文政12(1829)年 | 紙本墨書 | 1面 | 14.0×53.0 | |
| | えがわ たんあん 江川坦庵 | ほこうえいの ず 蒲公英之図 | 江戸時代後期 | 紙本墨画 | 1幅 | 18.2×12.2 | 高林コレクション |
| | きょくていばきん 曲亭馬琴 | なんそうきとみはっけんでん 南総里見八犬伝 | 江戸時代後期 | 紙本墨書 | 46冊 | 22.0×15.2 | 芝村コレクション |
| | 曲亭馬琴 | しんべん すいこがでん 新編 水滸画伝 | 文化2(1805)年 ～天保9(1838)年 | 紙本墨書 | 90冊 | 22.0×15.7 | |
| | 曲亭馬琴 | ちんぜいはちろうためともがいでん 鎮西八郎為朝外伝 ちんせつゆみはりづき 椿説弓張月 | 明治16(1883)年 | 紙本墨書 | 4冊 | 22.0×15.4 | 葛飾北斎・歌川芳年画 |
| | おおくら ながつね 大蔵永常 | かどた きかえしやほん 門田の栄(写本) | 天保6(1835)年 | 紙本版画 | 1冊 | 23.0×16.2 | 渡辺崋山画 |
| | 大蔵永常 | でんか きわ 田家茶話 | 文政12(1829)年 | 紙本版画 | 5冊 | 22.2×15.0 | 蹄斎北馬画 |
| | 大蔵永常 | ゆ きいろく 油菜録 | 文政12(1829)年 | 紙本版画 | 1冊 | 22.3×15.8 | |

重美=重要美術品 表記のないものは全て当館所蔵

田原市博物館

わたなべかざん
渡辺華山 寛政5年(1793)～天保12年(1841)

田原藩家老として活躍しました。絵は初め平山文鏡ひらやまぶんきやうに習い、白川芝山しらかわしざん、金子金陵かねこきんりやう、谷文晁たにぶんちやうの弟子となりました。絵の評判については23歳頃には画壇がだんで認められているほどでした。多くの弟子がいた事や、一番弟子は椿山つばきであったことが分かっています。

いとうほうざん
伊藤鳳山 文化3年(1806)～明治3年(1870)

庄内藩酒田しょうないほんさかた(現在の山形県酒田市)の町医師の家に生まれました。渡辺華山の推挙により、田原藩の藩校成章館の教授を務めました。華山の影響を受けた鳳山は、ペリーの来航時、開国を主張しました。

きよくていばきん
曲亭馬琴 明和4年(1767)～嘉永元年(1848)

本名は瀧澤興邦たきざわおきくにで、滝沢馬琴と呼ばれることもあります。馬琴は江戸時代後期のベストセラー小説『南総里見八犬伝なんそうさとみはつげんでん』の作者です。馬琴の息子、滝沢琴嶺たきざわきんれいが渡辺華山と同じ金子金陵の弟子である事から交友がはじまりました。馬琴と華山は本を貸し借りする仲でした。

さくらませいがい
桜間青厓 天明6年(1786)～嘉永4年(1851)

岡崎藩主本田家に仕えた岡崎藩士です。渡辺華山・椿山と交友していました。青厓が描く山水画は「山水は我青厓に及ばず」と華山に言われるほど得意でした。蝨社の獄ぼんしやごくで華山が捕らえられた際に、華山の釈放に尽力した一人です。

えがわたんあん
江川坦庵 享和元年(1801)～安政2年(1855)

通称は江川太郎左衛門と呼ばれています。江川家は鎌倉時代より続く名家で、江戸時代には伊豆国韮山にらやまの代官を代々務めました。坦庵は高島秋帆に就いて砲術を学びました。ペリー来航後は、品川台場建設、反射炉築造、大砲鑄造などを行いました。書は市河米庵、絵は椿山に学びました。

おおくらながつね
大蔵永常 明和5年(1768)～万延元年(1861)

豊後国日田ぶんごのくにひだ(現在の大分県日田市)の製蠶職人まいるうしやくにんの家に生まれました。大坂や江戸など全国各地を巡り、諸国の農政について研究しました。やがて田原藩の家老渡辺華山の知ることとなり、天保5年(1834)、華山の推薦で田原藩産物方さんぶつかたに就任しました。